

柏市逆井の観音寺・観音堂で牡丹の花咲く頃、句会を開いている「草の実俳句会」(代表逸見真三)では、句会が2回になるのを記念して観音寺吟行句を募集した。4月15日〜30日までの募集で、155句が寄せられ、別項のような当選句も決まった。一席、次席、三席には観音寺住職の色紙、入選句には図書券などが贈られた。

一席 船山冬木(鎌ヶ谷市)
牡丹の香りのなかの観世音
次席 伊藤公夫(柏市)
ぼたん寺一期一会の人と和す
三席 渡辺咲子(柏市)
お大師の目線のかなた牡丹園

入選(順不同)

◇シカチの花よと車椅子寄せり
佐藤かほる(松戸市)
晴れた日ははれたる顔の牡丹かな
上田義夫(柏市)
ぼうたんの色重なりて散りにけり
遠藤倭文子(船橋市)
緋牡丹の極楽浄土の灯となれり
漆原徳太郎(我孫子市)
人去つて浄土に戻る牡丹寺
中山美枝子(我孫子市)
ぼうたんの花みほとけのたなごころ
小沼宗心(柏市)
牡丹やスケッチ帳の色合わせ
村高威司(流山市)
山門を入るや真紅の夕牡丹
大塚博(柏市)
牡丹散り一期一会の思ひあり
斉藤泰雄(松戸市)
住職の心の布施や牡丹咲く
高山勇(柏市)

牡丹俳句に155句

草の実俳句会が観音寺吟行句を募集

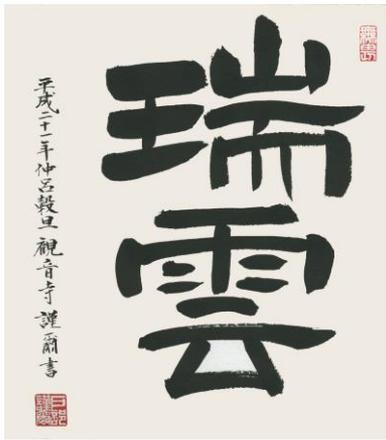
草の実俳句会・牡丹句会の4月25日は雨、牡丹には無情の雨だったかどうか、観音堂の賽銭箱の隣に句会の24句が展示されている。

み仏をしづかにつつむ若葉雨
牡丹の芯もろともに雫る雨
雨もまた天女の笑まふ牡丹寺
くれなるの雨ふふみある牡丹かな
緋には緋の牡丹の雨でありにけり
雨粒のふくらむ力散牡丹

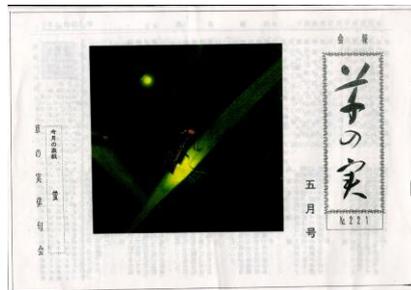
句会参加の俳人12人は、5月号会報に48句を掲載して雨にも動じないところを見せているが、さすがに一般客は少なかつたようで、入選句はみな好天下の牡丹を称えている。

雨とは関係なく、5月早々の東葛印旛大師講組合の送り大師一行が到着する日の早朝、大黒さんとお手伝いさんは傾きかけた花を摘む。容赦ない手の動きに同行二人の人も驚かされる。刀自の掌に触れて牡丹の光かな
句会の日にも、傾く花を摘み、袖ひちて…働の様子を見たようである。

最終の選者は、戸部謹爾住職。住職の当選者への色紙は一席が上に掲載した「瑞雲」。次席、三席には慈悲の呪(じく)のしゅ)カンマンなどの梵字。当選・入選句も観音堂に展示されている。



一席に贈られた観音寺住職の色紙



①句誌「草の実」5月号 ②句会の行われる観音寺観音堂

